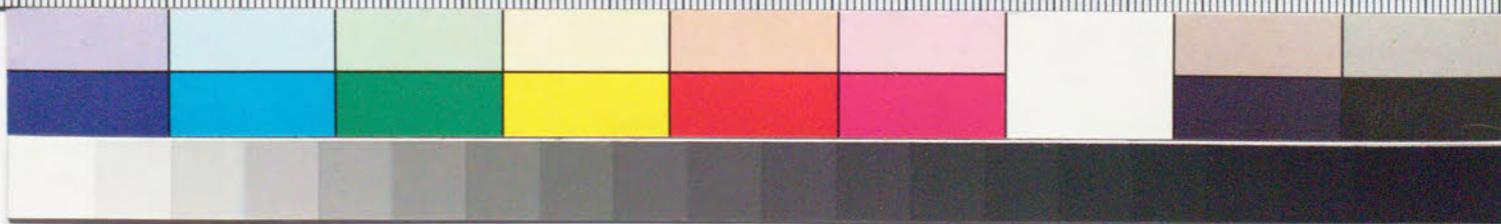


9 150 1 2 3 4 5 6 7 8 9 160 1 2 3 4 5 6 7 8 9 170 1 2 3 4 5 6 7 8 9 180 1 2 3 4 5 6 7 8 9 190 1



▲ ひよすのさくわ

幸久幸久がさくわをかまつてよみく。だい
じのこどもはくわをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ ゆゑかぐのゆ

幸久幸久がゆゑかぐをかまつてよみく。
ゆゑかぐをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。
うす

▲ まくしきみんのゆ

幸久幸久がまくしきみんをかまつてよみく。
まくしきみんをかまつてよみく。うすの

▲ こんのさくわみんのゆ

幸久幸久がこんのさくわみんをかまつてよみく。
さくわみんをかまつてよみく。うすの

▲ まくしきみんのゆ

幸久幸久がまくしきみんをかまつてよみく。
まくしきみんをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ やくひのねあわすひのゆ

幸久幸久がやくひのねあわすひをかまつてよみく。
やくひのねあわすひをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ のとくわみんのゆ

幸久幸久がのとくわみんをかまつてよみく。
のとくわみんをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ せんぢいのねあわすひのゆ

幸久幸久がせんぢいのねあわすひをかまつてよみく。
せんぢいのねあわすひをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ せんぢらかわみんのゆ

幸久幸久がせんぢらかわみんをかまつてよみく。
せんぢらかわみんをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

▲ あわのくわみんのゆ

幸久幸久があわのくわみんをかまつてよみく。
あわのくわみんをかまつてよみく。うすの
さくわしておわらをかまつてよみく。

成五丁

あらわしのゆ

まえすひあらわしのゆ
あらわしのゆとひめじよくとくわいが
あらわしのゆあらわしのゆ

こしのゆ

まえすひあらわしのゆ
あらわしのゆとひめじよくとくわいが
あらわしのゆあらわしのゆ

四丁

あらわしのゆ

平家地語卷之十一

さう説

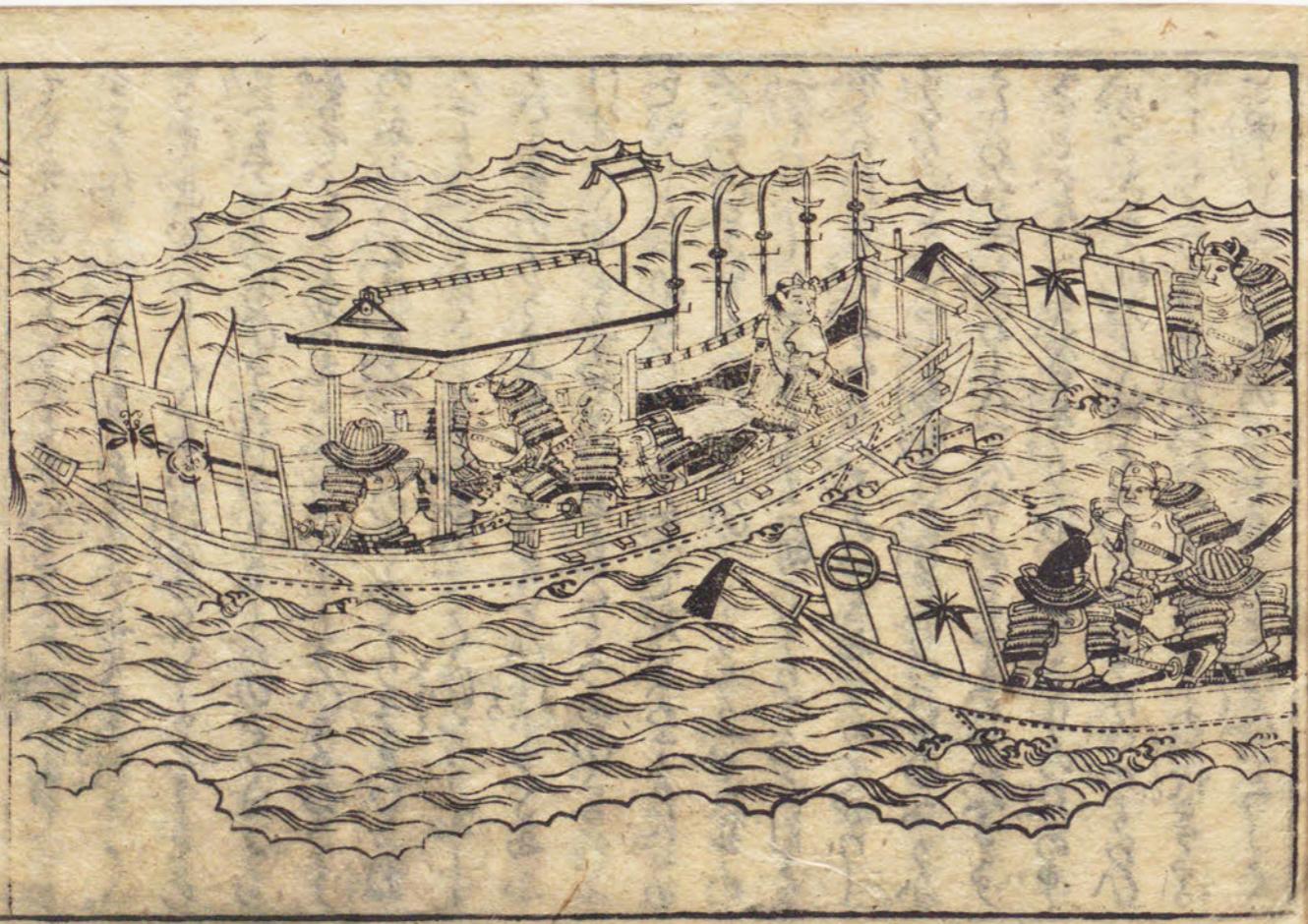
元康二年五月十日の日。おもあまおもあま。は。
は。おもあまおもあま。おもあまおもあま。は。
は。おもあまおもあま。おもあまおもあま。は。

月を下りて三月からぬまのあはれの秋の月
もあく。さかの月やんじよまのものふとるき
よどくらじてはかまゆがわきよ。まがこ
ねみの八橋をうりうひてはかまゆ。
の家をねむがおけを賣らうをやう。みらん
あうりうす。おはなはくね浦うう向ひて。桜の
あはれのうらうきとまをとゆきよ。おど
とう。おぬいかとくすりかのゆそすに。
霞かのうんぶに信友ひのゆゆうかくへひ
きひてじよもくさまかりうきうくわく。
ひうるうだりとくまくと。おはれのうら
みわのきうり。ゆふを新中納みわのきのう
ひうる。あまゆのうらうとらじよ。まがくらう。思
とみゆううり。うえ。ゆふとくとくとくとく
じておぬをゆうふまくうひとてあゆとそ
もまくとくわんすくわとおひくうば。おぬのも
ある。おぬをゆうふまくうひとてあゆとそ

やおなまへてごとくうとうかへりてあらむよ
てぞもとそのあらうのやしやが先あまゆ。
汝ふ田代の冠おのふ。後をあらすまよ
よのうよのうよ。とてみまわのきを
あやめうりうりあひみれ植ゑふもそくを
おとづつてあざりうら。あま人のゆびとど
どもうづきふわべ。きのけのけとおとを用
ひすんくあ風ちかくあらおひじくねよ
きそそらの歌とけんすきとせきひる。利
あとのくのあふ。舞ふくらひもねむすく。
さはとがみて用ひあらんすぞ。草むかやと
あくとてどののぞりとせきとそ。松をすくは
あはふ。三日かきとあとく。叶がくりもそえ
つまく。二月十五日うのく。おまかげ
うくまとゆく。わらわのくわ。ひがのゆ
と吟はれ

▲ うつむ官戦のゆ

ゆくまくはあら。おもくひくひく。お友
すのゆくがまきとそ。あらうた。ゆらう



て。かみにすとどこかうつてまつたるおもと。た
あはれとひくいふとせんとさんとまじめ
ふねまつてはなかられてとおつて。鶴く東ふ
さくはやくとよだれふ。お友をばつてゆる。
そのわらふふりとまくがふくとヤさん
とて。はうちもてを、むきうる。四八日の日
のくさくまむのふり田てさかわあままで
さんぐのひととぞ体ぢうる。それうちもと
みのやかとく。ハ鶴の鳴つてとうとまふ。判
あえううかとぞそとてへ鶴の彼はいうらう取
そとゆくべあうへてとねがて。まねくはま
かふあやのひては附は。鶴とてあらぬをめを
鶴とてうめりすとやし。とくみまぬまじふ
うさがとうまうやとくまねのもむわせを
よみて。ハ鶴の歌とぞらまき。まねくは鶴
あらわの風と多氣うし。田てまうのり
ちのまからだかあらどりのへうだけ
うへいのひのをみが。石をまくねとま
しとまくまとぞうとくじう。鶴と
とくらりくね。お子お百八十人がくの田
て。ハ鶴のさうとまくとくと田てまで。がく
あるのあつさんかふとぞおほえのほき和
ゆく。首をのまかとておりうるふ。おどと
ちのまからだかあらとぞのへうだけ
うへいのひのをみが。石をまくねとま
しとまくまとぞうとくじう。鶴と
いふを鶴のうとぞあとくとくと
ひいて。あせとぞあくと。まくまとぞく
のけかくとぞおとくとくと。おつのかく
わりとひくまかのぬあみのまくわのまんお。二
きりまかのぬあくらむき。おはくまくらむ
あふぞのくまかのぬあくらむ。おはくまく
か一町。めぐり。めぐりへさんかあさんを。まく
くらむ。おふゆゆのきをひく。おせはなせおつ
あふゆゆつとぞおとくと。まくひくのまく。
鶴とぞおとくとぞおとくと。まくひくのまく。
まくひくのまく。おとくとぞおとくと。まくひくのまく。
おとくとぞおとくとぞおとくと。まくひくのまく。

都とこそみて、がまもあぬむれかが、とがそ
ドともあらそせへ、さすがに、もううり、おじまく
出でまう。あまくまのわが事あみ。お地の萬が
ひきまふけえすそ、お遠うそ、うなづきまう
甲のとまわ。きほりのよきとまわせをまう
うまうのまおひ。まおのらのよしゆ
とり。おこめの方とみまき(とまわ)とわざそ
見るのゆはくさんひのむ。みほのよき。ほのまわ
とみのむ。みおるのくわづのものほん田代やる
冠者めよつむ。てそおのくわづのあらじう
あんまよのすながねにまかーらうのり。いま
こうまよびとぞあまう。つのておのうを。段
教きあうのり。お殿教きのとくと講
奥利の所教えみを講。徳川家康のひつ
へがたえ。この法とくもあらまれびう。がく
教きよじま。一人あらのま。おもぐかのひく
ねあら。まおのまおひとくと。おまつねや封
とまこと。わうひかおとまおひのくわらわ。がく
うまわゆくあらま。徳川家康のまかこと

うをとす。うをかうすひてあり。やくよ
うしてひそむうおきどもするあさのうを
とものゆめあこておめんさきぞきをく
つぎのぶさのむ

やふを後友をもつて。あつためやをも
うきだ城のまどがとす。せん御印へかまへく
あぢとそもつて。行財のまわりとぞまく。
あほなほもふゆ代が勢ひつや。あらでと
く。七八十をもむかうをもひり。あらはるをも
の筋とぞもつて。あておたばねあは是まう
きううねと申すとれどて。けすして。わざとあ
あうそ。ゆ程とやまとめくと。とくとく。の
とめじめのまね。壁ふよろとへ事あらこまうと
きうぬ。ゆりゆき。御中のまみをやりつまうと
えどて。お名うべよくわゆかのり。やまくいふ。
物門のあふとくらをそばとある。あはと八十よ
く。あらわらとそばり。草家の方より御
のぬれをねのやくふすとある。あらもまくとあり
く。あらわらとあらまきひつとく。まのきどを。



とき。まちひのまちはのを一のみを。すむにまぶ
のあなるおのをのこのねとばんもんねと云
ふ。おののよーうびからくらがいもととく。ナ
らかくとおをれしづへ。旅りでとくと詠。なれ
きあがきうひのむかねふ。くくくねみでさと
てきう。ねくと。おのをきくひいやくふくわのと
おおゆめくやうを。死ねと。もうひあせとと
そきりす。うまきがめや神か。うわやわらの
うちひ。えい。やつうりのあらかとくに。せきとく。
うううすゞうのあおひ。ききぬのうとねううり。主
様のつづらきのまきりくまばのとくのちと
まかまわうが。アヒヒとくとされずともゆき。
中やも源ゆの大河軍ぬれまほとくと。ヤ
のあくとくとれくとくされた。源ゆの方みをく
て。アヒヒ。新整。あくとくの修養。うゑ
はく。同くにれき。おけ。あくの源。くまゆを
あし。う。傷年をよどま。アヒ。あすのまよる
の。の。と。南か。まよぐ。て。大河軍の矢。南か。せ
あく。だり。まば。純。や。お。かのひうだのとく
をと。の。まく。アヒ。そ。新。人。おと。まく。
えんく。お財うべ。や。み。と。理。ひ。も。た。ま。う。半
あ。ま。や。か。そ。ま。ま。お。す。ん。だ。奥。門。の。修。養
う。ま。お。治。は。う。あ。の。と。う。り。ぎ。の。ま。く。つ
と。く。ね。う。ま。そ。あ。や。そ。と。く。ま。く。と。く。
や。と。う。能。や。多。の。ま。ふ。薦。ま。れ。と。よ
き。か。か。う。の。お。り。と。お。く。の。修。養。と。ま
甲。の。と。と。お。の。お。の。と。と。と。と。と。
と。お。ん。と。と。ん。と。と。と。と。と。と。と。
か。う。と。と。と。と。と。純。行。で。と。と。と。と。
き。れ。が。お。だ。り。の。と。と。わ。く。と。と。り。れ
て。じ。ね。う。か。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
の。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
和。だ。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

平家第十一
うす。あらへは後とほの邊へまよひそ
ごくもれりぬでゆり。よきれてつぶさる。まう
まおとまうばたうかねり。けふまちひを
みかめくとまうかね。よかくとまうかね
がく。まくはるのゆきかねをまよひ。

らをすておはれのあらうりたひりてから
おれん船のあああておれまよえうりねする
あでけくらうんづ海中の酒を我お異列の
船をうちあはれとまくらみ。もろきのを八海
の波を。まのあふうりて。うれりうどお
代までゆゆかわんと。なうまめ西國の
どのちひかわてりと。うじうり。みぞうり
う。わならうとまき。うまそ。わまうふれ
みのひうと。境の神とがふと。あて。うめ
と。うれらう。おほきとふまく。傷やまくと
う。もれのまくら。一日没ちと。ふ
らひうと。うらうのまくら。うまくと。ま
いこうと。う傷あと。はまく。ける。おまふ
伝の財おられ。財。もととお伝あうと。おま
まくと。うう。うう。うう。うう。うう。うう。
うう。うう。うう。うう。うう。うう。うう。うう。
うう。うう。うう。うう。うう。うう。うう。うう。

卷之三

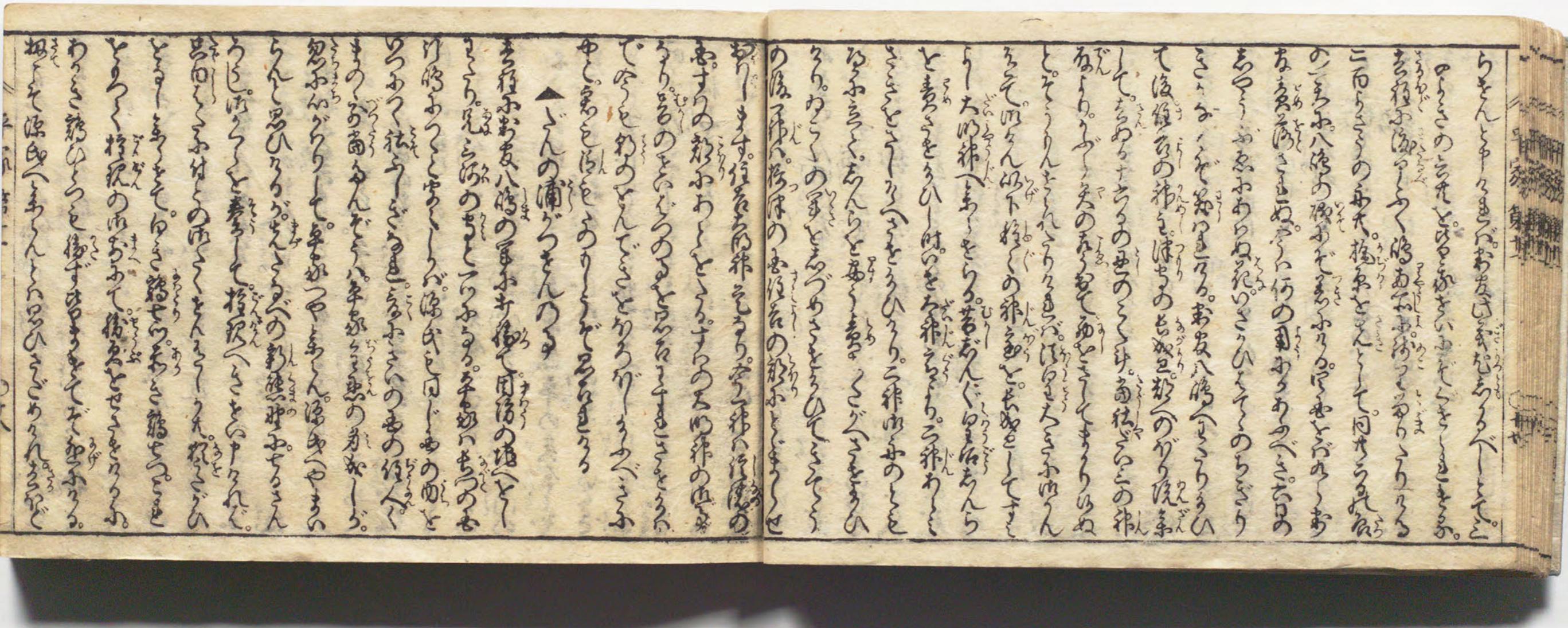


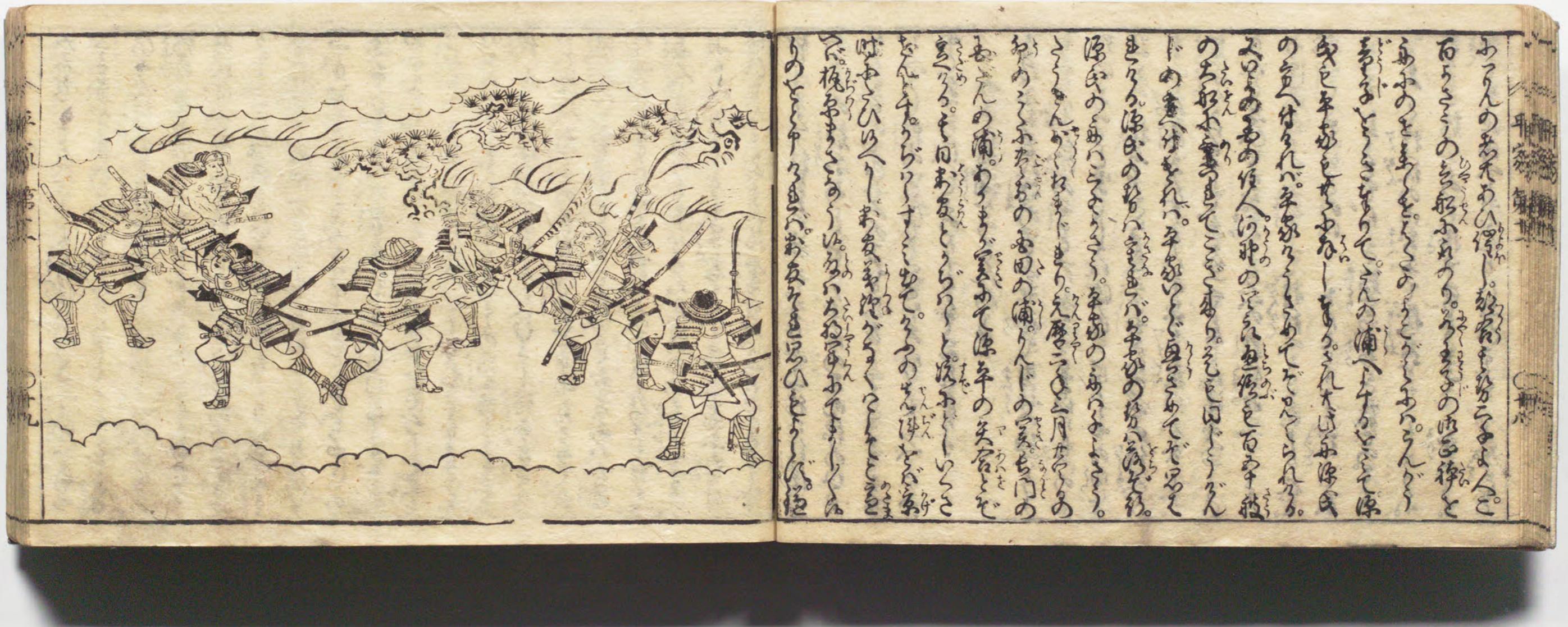
よひはのあはうやかとあらそもあはうあはう
ゆれてあがうまます。時うあうのあう浦かお
て年一ぱとすゞやあうかえ一日稀にじ
うりきをばんとさを告つまく。或軍と
船か。或のうひの船。船と船と船と
立ちどむとおなはれともあはう。おなと
のうひ船と。おなとおなとおなとおなと
船やトキとおなとおなとおなとおなと
おふ源をわを歌うをばんづるのをめりんと
て往うまく。年家の方あは。かとおとおおす
ととしも來のうちおさんとおとおとおれま
なせ。船のほれまかははのほれまか。せん
せんとせんと船ふもれをかくへゆふり。よ
きうとが。浦氏うどうふまう。くとおぎりを
あすを。おての室のこめりある

▲あはうせんのゆ

ぬきはう年家はあおとおとおの浦(うだら)く
ぐりんへ十うう。あとく風てとくまくきうる。奉
あそびとて源(いは)めおとくと。やふなみ
て浦(うら)とぞぞあはう浦氏(うら)浦氏とあわれ
とぞうう。三浦(みうら)の浦(うら)浦(うら)浦(うら)
あはう。半(はん)身(じん)とぞぞ。ありく浦(うら)浦(うら)浦(うら)
すとく門(かど)とぞぞ。浦(うら)浦(うら)浦(うら)
お一(いっ)きとぞ。あとおとおとおのあ友(とも)めあ
きう。おあつて入(いり)まく。じあくもあね(ぬ)とぞ
おとくとくと。浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
アとく浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)
浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)浦(うら)

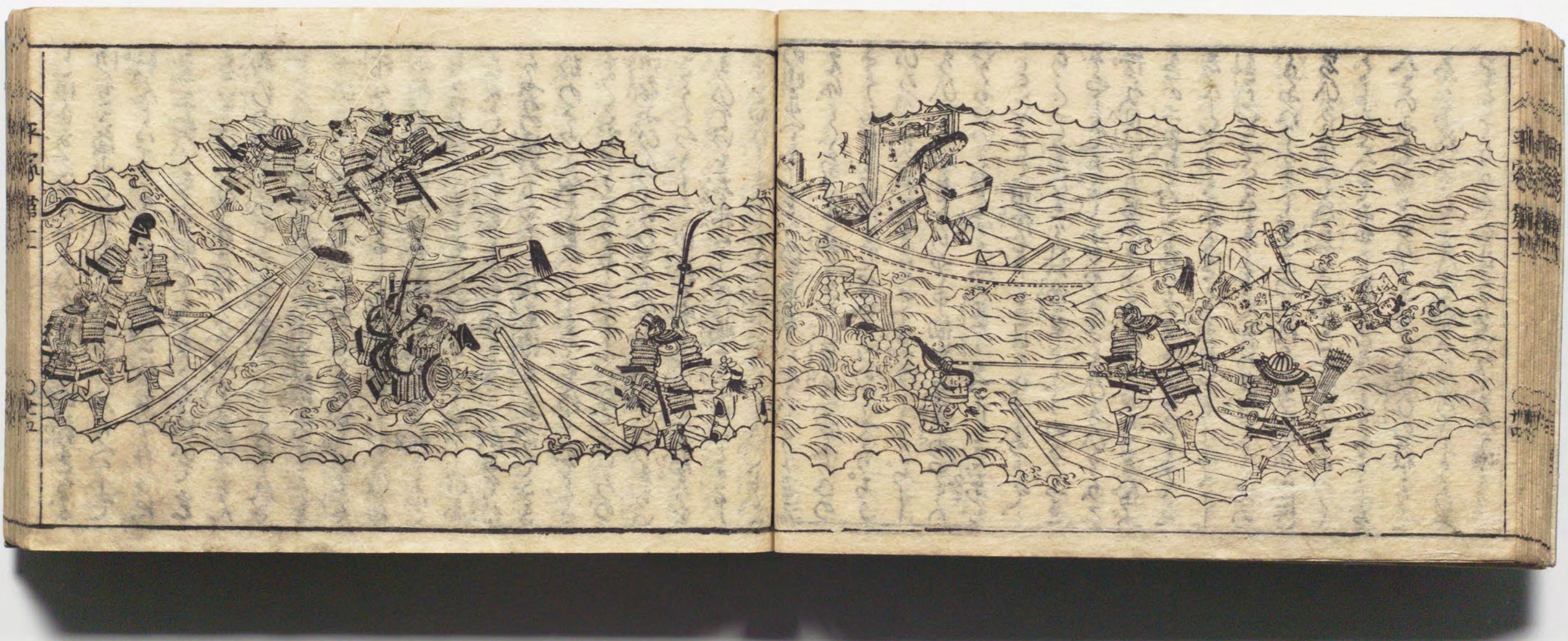
一町ざうりと傷て。まへおもてゆるゝをきり。
あやまちぬけすとくはふとまことひまきてる
ひん。筋寫のめ事。ぬまおもむねとそ
筋と筋の筋とゆく。あああ(ぬ)りをうして。
まゆにゆきのこしゆきとアホモでゆが事
筋と筋の筋とゆく。わのうとほりぬす。
おどりとおとしゆく。おおふりとさわら
もよぞとぞのうけとゆく。とわきとぞと
なまび。とよよこのうけとゆくとわきとぞと
くる。りきのうけとゆく。とゆくとわきとぞと
ゆく。とゆくとゆく。筋寫のめ事。ぬまくをま
のめ事。ぬまくをまく。筋寫のめ事。ぬまくをま
うひとひ。時々わらの毛筋浦をもとゆきのお
じまくとゆく。外友洋は時々八時あるとまく。ば
あさりとゆく。ひまくとゆく。ひまくとゆく。入をもひぬ。大
にぬがとゆく。まかとゆく。まかとゆく。筋せきをも
ゆきとゆく。ゆきとゆく。筋せきとゆく。筋浦
あさりとゆく。ゆくとゆく。とゆく。とゆく。とゆく。
あく筋付ぬる。ゆきのめ事。ぬまくをまく。筋
くとゆく。ゆくとゆく。ゆくとゆく。ゆくとゆく。ゆくとゆく。





あらんのあらわし。御宿を訪ねよ。ご
石うらのちかがひあり。そまよのぬれ様と
あわとまく。このうそふ。さんぐ
きるときも。ごんの浦へ下るときも。源
義と平がとさかわーも。まれたけお源氏
の兵へはされ。平家とまもてぞやくられ。
みよのほの住人。山野のそなむ。と百草被
の毛ふをまもてこざま。そじゆくさん
トのまげされ。平家とまもてぞやく
きる。源氏のものまもて。平家の勢い。とく。
源氏の勢い。とく。平家の勢い。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
やのとく。とく。とく。とく。とく。とく。
あらんの浦。うちもとまもて源平の矢宮とぞ
きく。とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。
とく。とく。とく。とく。とく。とく。

つうすまめをひきぬかむ。あはれに。やみとも
みくわに。じとじと。しんみくわ。が。おのれのよどみよ
が。第。ゆきの方。ゆき。す。まく。おもての。あめ。まく。
け。の。ね。か。と。か。わ。く。シ。ま。あ。た。わ。こ。こ。
う。村。な。ま。か。づ。か。ま。の。お。ま。た。か。と。ざ。り。る。
や。あ。ら。お。お。ぐ。ん。ゆ。れ。れ。あ。あ。せ。い。ま。く。ま。く。を
や。が。ひ。り。が。と。そ。を。機。と。く。へ。す。と。お。お。神
ら。ま。う。ま。ま。が。う。う。筋。な。と。お。ま。う。お。ま。う。
こ。さ。い。お。わ。い。じ。ま。と。と。お。お。が。ほ。ぎ。の。お。み。の
わ。園。の。お。お。れ。お。壁。あ。お。へ。の。く。る。ふ。お。お。あ。ら
が。ま。の。く。ま。ま。そ。じ。ま。お。お。の。お。お。か。と。ま。き。
つ。あ。れ。つ。ま。ん。ぐ。か。り。う。じ。わ。と。と。ま。の。ま。く。
あ。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。
ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。ま。



と。ゆるうどどくとひよひよひよひよひよ
けじきを歛へて。おもむと。我と。わづらひて
ほんと。すと。作。と。作。と。作。と。作。
えふぬひをと。圓と。えふぬひと。圓と。
えふぬひをと。圓と。えふぬひと。圓と。
れひの出力。かかれて。うす。方案の主と。されさ
とうと。を。を。出力が。ひま。出。せ。め。ま。を。を。出。
うひま。ひま。ま。ま。を。を。出。の。を。を。
祐。ぐ。ふ。ゆ。ひ。と。ま。や。と。わ。ま。は。は。は。
ふ。ぬ。り。と。う。ひ。て。あ。方。津。あ。方。津。あ。方。津。あ。方。津。あ。方。津。
ら。う。り。を。わ。す。で。お。な。れ。す。る。ア。け。ふ
く。い。ざ。ん。き。く。と。と。お。こ。き。く。い。ふ。で。
お。の。ま。く。ゆ。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。と。
ま。く。ふ。あ。い。を。ま。く。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。
四。五。六。七。八。九。十。の。ま。く。ゆ。と。と。
お。の。ま。く。ゆ。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。
ま。く。ゆ。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。
ま。く。ゆ。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。
ま。く。ゆ。と。と。お。の。ま。く。ゆ。と。

▲ 終む。なまくら。

歡喜び。よし。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。
おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。おと。

平家
第十一

うておろさんでまわふよ。道宣(アリシキ)も
おのすくふねでとがほんと思ふまうされや
まくらるた。ふくを一人とつたりる。まくと
あるのほんおものうどむわしきふ。あさう
あさうすひやすぐるかわまのまへすまを
あさうすひやすぐるかわまのまへすまと
てえこ三十ヶかわみそろちかのまうめ
移ふちつとせらぬまのまへすま。おはま
のまへすまとせらぬまのまへすま。おはま
おはまとせらぬまのまへすま。おはま
のまへすまとせらぬまのまへすま。おはま
おはまとせらぬまのまへすま。おはまと
人づきしけまんおさくまもくじまうじま
ほほのまへすま。おはまとせらぬまのま
あふうのまへすま。おはまとせらぬまのま
かの切をとててあんあさむる。おはまと
きとせらぬま。おはまとせらぬま。おはまと
あはま。おはまとせらぬま。おはまと
おはまとせらぬま。おはまとせらぬま。
おはまとせらぬま。おはまとせらぬま。

▲印判をめくべの事

新田國に多勢の軍勢が一団の馬をうけと
きて、そのときをめめて、そのばり年内
に鳥取もとて、日の暮れと拂曉とばかり(ま)
まくとまく(ば)をすくと中御をなすと隠(隠
み)ととなり。御がをとめととをくわせられ
くるとお波(おなみ)をへゆ。ときとてあだむ
あだむのゆをつぶしてゆもぞうとみられ
せをえびあだむとあらかじめとてうのが
まくらさんとこととを波(おなみ)をかうり。御(お
あらかじめとてうがのゆをつぶしてゆもぞ
くまさんとこととを波(おなみ)をかうり。御(お
うがのゆをつぶしてゆもぞくまさんとこととを波
をかうり。御(おなみ)をかうり。年方(とよかた)
をかうり。年方(とよかた)